

やまびこ 特別号 362号



忙しいときこそ「なんで?どうして?本当に?」を大切に!

雪もやっと降らなくなり、内に外にやる事がたくさん!春は何かと慌ただしくなりがちな季節、そんなタバタの毎日にあえて逆らう...ゆっくりじっくりの哲学はいかがでしょうか!

4月27日は哲学の日です。古代ギリシアの哲学者であるソクラテスが政治家や詩人など当時の権力者に哲学問答を行い、相手の無知を指摘することを繰り返すうち恨みを買ってしまい、紀元前399年に死刑宣告を受け毒杯を仰いで亡くなったのが4月27日とされています。

哲学というと、難しい・何の役に立つの?と思われるかもしれませんが、しかし実はそうではありません!誰にでもできる・この世のすべてに役立つことなのです!

哲学(philosophy)の語源は愛(philia)と智(sophia)なので、知を愛し、物事についてじっくり考える...それはもう哲学と呼んでもいいのかもしれませんが、なぜ部屋掃除を始めたのに久々に発見した本を読みふけってしまうのか、なぜつまみ食いはあんなにおいしく感じるのか...そんな身近なこともじっくり考えれば哲学になります。そして哲学の考え方はクリティカルシンキング(批判的思考)と呼ばれ、近年とても重要視されています。批判的というとはよくないイメージがありますが、今ある当たり前のことや情報を鵜呑みにすることなく、それは本当なのか・より良い方法はないのかなどを含めて考えることで、色々な視点から多角的に物事を捉える力につながります。古代ギリシアでは自然現象は神々の力によるもの(雷はゼウスが投げている!など)と信じられていましたが、当時の哲学者がそれは本当なのか?神が起こしたことでないのではないかと考えたことが、神話的な世界の捉え方を科学的視点へと転換させたのです。これまでもなんで?どうして?本当に?は次々に世界の変化を生んできたのです。

忙しい4月だからこそ、1人の時間を作ってゆっくり考える...時代が求めるタイパ・コスパの流れには逆行するかもしれませんが、大切なことではないでしょうか?皆さんも身近なところから、Let's philosophy!!

=図書館にある「哲学」関連本=

- 『大人になるっておもしろい?』清水 真砂子(2015)
- 『悪いことはなぜ楽しいのか』戸谷 洋志(2024)
- 『子ども哲学』どう解く?制作委員会(2024)
- 『どう解く?』佐藤 邦政(2021)
- 『学校にはない教科書』岩波 邦明(2015)
- 『はじめての哲学』藤田 正勝(2021)
- 『ひとりて、考える』小島 俊明(2019)
- 『現代哲学キーワード』野家 啓一(2016)
- 『考えるとはどういうことか』梶谷 真司(2018)
- 『哲学のメガネで世界を見ると』河野 哲也(2023)

=今月の誕生鳥=

カナリア

鮮やかな黄色のイメージが強いが、黄色は飼育下の品種改良で生まれた色で、野生の原種は茶色とくすんだ黄緑色。美しい声でさえずる。

~カナリアのおはなし~

- ・『カナリアのシスリーB』ターシャ・テューダー/著
- ・『カナリア王子』イタロ・カルヴィーノ/再話

令和7年4月1日発行
 鶴岡市立図書館・鶴岡市郷土資料館
 〒997-0036
 鶴岡市家中新町14-7
 (図) TEL: 25-2525 (郷) TEL: 25-5014
 FAX: 25-2526

◎小説・エッセイ

- 遊園地ぐるぐるめ(青山 美智子)
- 午前零時の評議室(衣刀 信吾)
- 移動そのもの(井戸川 射子)
- ブレイクショットの軌跡(逢坂 冬馬)
- オール電化・雨月物語(青柳 碧人)
- ディア・オールド・ニュータウン(小野寺 史宜)
- リヴァプールのパレット(大崎 善生)
- リペアラー(大沢 在昌)
- 我らが緑の大地(荻原 浩)
- 初瀬屋の客(西條 奈加)
- 人生劇場(桜木 紫乃)
- バスタブで暮らす(四季 大雅)
- 伊根の龍神(島田 莊司)
- 天久翼の読心カルテ(知念 実希人)
- おぼろ迷宮(月村 了衛)
- ミナミの春(遠田 潤子)
- アサイラム(畑野 智美)
- 問題。(早見 和真)
- 無双流仕置剣(藤井 邦夫)
- 灯火(本城 雅人)
- 月とアマリリス(町田 そのこ)
- 侠(松下 隆一)
- 世界99 上・下(村田 沙耶香)
- 逃亡者は北へ向かう(柚月 裕子)
- 老いはヤケクソ(佐藤 愛子)
- 生きる仕組み(養老 孟司)
- 将軍 1-4(ジェームズ・クラベル)
- 世界の終わりの最後の殺人(スチュアート・タートン)
- ブリス・モンタージュ(リン・マー)

◎実用書

- その場で言語化できるメモ(佐野 雅代)
- 社会人1年生の情報セキュリティ超入門(ハッカーかず)
- 読書効果の科学(猪原 敬介)
- 毎日読みます(ファン ボルム)
- 70歳を越えたらやめたい100のこと(中山 庸子)
- 人生の経営戦略(山口 周)
- 神社に秘められた日本史の謎(古川 順弘)
- 世にもふしぎな法律図鑑(中村 真)
- いますぐ防犯(佐々木 成三)
- だます技術(小森 美武)
- 日本人とはなにか(柳田 国男)
- 「数字がこわい」がなくなる本(堀口 智之)
- 活断層防災を問う(鈴木 康弘)
- おしゃべりな絶滅動物たち(川端 裕人)
- 僕には鳥の言葉がわかる(鈴木 俊貴)
- ブルーインパルス(宇都宮 直子)
- 志麻さんちのおやつ(タサン志麻)
- 食べすぎた!をなかったことにするリセットごはん(新谷 友里江)
- 江戸の園芸(江戸遺跡研究会)
- もう枯らさない!観葉植物の育て方(谷奥 俊男)
- 獣医さんがゆく(浅川 満彦)
- 矢部太郎の光る君絵(矢部 太郎)
- 「好き」を言語化する技術(三宅 香帆)
- にゃんこ関西弁辞典(西川 清史)
- ゆふすげ(美智子)

◎児童書

- SNSから心をまもる本(小木曾 健)
- ものすごい研究図鑑
- どう解く?(やまざき ひろし)
- こども東北学(山内 明美)
- 震災アーカイブを訪ねる(大内 悟史)
- 知ってそなえる地震たいさくBOOK(久保 範明)
- 10代のつらさに寄りそう本(田村 節子)
- スクールハラスメント(神内 聡)
- ぼくらのお祝いごはん(落合 由佳)
- 時間の図鑑(一川 誠)
- 深海生物生態図鑑(藤原 義弘)
- 工場大ずかん(うえたに夫婦)
- 世界を変えた!日本の発明品30選(ルース・マリー・ジャーマン)
- お城の迷路(香川 元太郎)
- パティシエのお仕事を見にいこう(柴田書店)
- やばっ!(トミー・ウンゲラー)
- あっぱれ!われらのてんぐさま(オノガワ アサコ)
- こねこのトはおるすばん(くらはし れい)
- ようかいむらのごらくてんごく(たかい よしかず)
- まるごとちきゅうレストラン(チョー ヒカル)
- ショベルカーごあんぜんに!(はっとり ひろき)
- おたすけてんぐペンペン(長谷川 義史)
- ながいながいあさごはん(ボコヤマ クリタ)
- あなたと宇宙(スティーブン・ホーキング)
- こけしぞろぞろ(まつなが もえ)

やまびこ号の次回巡回日は

月 日です

新着図書は上記以外にもありますので、お気軽にお声がけください。新刊は、ホームページでもご覧いただけます。



昭和14年「図書祭」について

鶴岡町立図書館が開館したのは、大正4年(1915)11月10日であり、今年(2025)が110年目にあたる。数多くの皆様に助けられ、大正・昭和・平成を経て、現在、令和の時代を迎えています。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、この図書館の特徴の一つとして、古い文書が捨てられずに残っているということが挙げられるが、例えば「公文書綴」という、公文書に類するような資料の綴りが昭和初年から40年代まで保存されている。これらをめくれば、その時代ごとのこの図書館の変遷、並びに日本の図書館行政が垣間見え、それゆえ資料的価値も高く、「図書館史」の研究者からは高く評価されている。今回は昭和14年の「公文書綴」に収集された「図書祭」について紹介してみたい。

この「図書祭」は「読書普及運動」として11月9日に図書館内で開催された。これには熊田周八鶴岡市長はじめ小中学校の校長と図書主任、各新聞社、風間幸右衛門、三井弥惣右衛門、平田吉郎などの財界人を含め、47人が招待されていた。その案内文だが、以下の通りとなる。

昭和十四年十一月八日

鶴岡町立図書館

鶴岡書籍商組合

謹啓時下秋冷之候、益々御清穆奉欣賀候、

陳者本十一月八日ヨリ五日間全国読書普及運動実施セラレ候処、鶴岡町立図書館鶴岡書籍商組合共同主催ノ下ニ図書尊重ト図書ニ対スル感謝ヲ捧クル為メ、別紙要領ニ依リ図書祭執行致シ度ク候条、御参列被下度御案内申上候、

つまり、この「図書祭」とは「図書尊重と図書に対する感謝」を込めたイベントであり、本という共通項があるため、鶴岡書籍商組合と協同で開催されていたようだ。実際のセレモニーであるが、次第を列挙すると、

- ①参列者着席
- ②祭員着席
- ③主催者挨拶
- ④修祓(祓詞・大麻)
- ⑤降神
- ⑥献饌
- ⑦祭文
- ⑧拝礼(玉串奉奠)主催者・市長・参列者代表
- ⑨撤饌
- ⑩昇神
- ⑪主催者挨拶
- ⑫祭員退場
- ⑬直会

という順番となる。

このうち、⑦の祭文については、図書館長の半田喜代蔵が以下のような文言を読み上げていた。

鶴岡町立図書館半田喜代蔵敬テ曰ス、凡ソ文化ノ向上発達ハ職ヲ人智ノ開明進歩ニ由ル而モ克ク之ヲ図書ノ功ニ帰セザル可カラス、然ルニ近時図書ノ世ニ出ルモノ多キヲ加ヘテ人ハ漸ク其ノ患ニ忸レ動スレハ敬愛ノ念ヲ遣レントス、洵ニ慨嘆ニ堪ヘサルナリ、吾等日夕図書ニ親近スル者、宜シク先ツ反省シテ常ニ感恩ノ精神ヲ持テ、大ニ図書ノ功德ヲ顕彰シテ、以テ図書ヲ尊重スルノ美風ヲ振興スルコトニ務ムヘシ、乃チ茲ニ薄カ菲薦ヲ修メテ図書ノ靈ヲ祭り、謹テ報本ノ微忱ヲ表ス、尚クハ饗ケヨ、

とても難解な文章であるが、要するに「文化向上と人類進歩は図書のおかげと言ってもいいが、最近では図書を大事にしていない。嘆かわしいことだ。我々は反省して、もっと図書を大事にするべきである」ということであろう。

なお、この祭りの経費としては、神饌料として1円20銭、神主2人への謝礼として3円、直会費(50人分)として酒代(4升)6円80銭、赤飯1升・スルメ・香物として12円50銭、菓子代1円50銭、合計25円という決算報告がある(このうち、市費が15円50銭、書籍商組合が9円50銭)。

これだけ見ると、何か厳かそうな祭りに見えるが、この時期、並行して実施されていた読書普及運動を喧伝するため、図書館では7500枚のチラシを作成しており、そこには「新東亜建設は先づ読書から」と中央に大きく書かれていた。昭和12年(1937)10月に国民精神総動員中央連盟が結成されており、社会全体で思想統制が図られていく中、読書もまた、個人の活動だけでは済まされなくなった時代だったといえる。本来、「新東亜建設」と「読書」は無縁であるはずだが、この運動の一環である「図書祭」もまた、単に本を崇めるではなく、もっと深い意図があったのかと思われる。

開館110年の間、この図書館では40・60・70・100年に記念誌を刊行してきたが、「図書祭」について、いずれも詳しく触れていない。図書館に祭壇をつくり、50人が参集し頭を垂れている風景は、場にそぐわない違和感があり、それだけに感慨深く思った。(今野 章)

図書館からのお知らせ

図書館ホームページが新しくなりました！

新ホームページ →



利用照会 →



※前のホームページは完全閉鎖いたしました。前のホームページをブックマークされていた場合は、新たに上記ページをブックマークをお願いいたします。

予約本割り当てメールの発信アドレスが変更されました

新アドレスは tsuruoka-toshokan@bz04.plala.or.jp です。

◆図書館ホームページ随時更新中です◆

新館建設事業や新刊情報、各種イベント開催のお知らせ等更新しております。ぜひご覧ください！

◆利用照会ページがもっと便利に◆

(下記機能の使用にはカウンターでパスワードの登録が必要です)
蔵書検索のバナー→利用照会→カード番号とパスワードでログイン

- ・バーコードの表示でスマホが利用カードの代わりに！
- ・インターネットから返却期限の延長 **OK**

※延長したい本に予約が付いていない場合、返却期限の2日前から延長できます

・本のウェブ予約もできます📖

